

作成年月日	平成 28 年 10 月 17 日
作成部局 課室名	産業労働部国際局 国際交流課

金澤副知事の海外出張（フランス共和国）

アンドル・エ・ロワール県トゥール市で開催された「第 5 回日仏自治体交流会議」に金澤副知事が参加し、兵庫県の PR を行うとともに、日仏自治体共通の課題につき議論し、友好交流先のアヴェロン県をはじめ、関係自治体等と交流を深めた。

また、この機に、本年、友好交流 25 周年を迎えたアンドル・エ・ロワール県及びセーヌ・エ・マルヌ県を訪問し、これら友好交流県との交流推進を行うとともに、神戸日仏協会とサンシール・シュール・ロワール日友好協会との交流推進に関する協定書の締結式に参加した。

さらに、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に際し、仏柔道選手団による国内事前合宿の本県への誘致、また、本県に進出する仏企業のエアバス・ヘリコプターズ社の工場訪問等を行った。

今回の訪仏は、フランス 4 県と友好交流（全国最多）を行う自治体である兵庫県として、フランスとの経済、教育、芸術文化、観光などさまざまな分野での交流を一層促進するものとなった。

記

1. 期 間 平成 28 年 10 月 4 日（火）～10 月 10 日（月・祝）
2. 訪問地 フランス共和国 アンドル・エ・ロワール県（トゥール市、サンシール・シュール・ロワール市）、パリ市、バニユー市、セーヌ・エ・マルヌ県（フォンテーヌブロー市）

3. 主な内容

（1）第 5 回日仏自治体交流会議への出席

- 日 時：平成 28 年 10 月 5 日（水）～6 日（木）
- 場 所：トゥール市ヴァンシー国際会議場
- 参加者：約 170 名

【フランス側】3 州、2 県、1 メトロポール、14 市

オクシタニー州、オーベルニュ・ローヌ・アルプ州、サントル・ヴァル・ド・ロワール州、アヴェロン県、ヴァルドワーズ県、ナント・メトロポール、トゥール市、マラコフ市、ルマン市、オルレアン市、ボルドー市、エクサンプロヴァンス市、ナンシー市、コンピエーニュ市、ペサック市、オータン市、シャルトル市、イッシー・レ・ムリノー市、レンヌ市、バンタン市の各代表

【日本側】1県、18市

兵庫県…金澤和夫副知事、水口典久国際局長、横川太パリ事務所長、安福幸雄
神戸日仏協会会長

神戸市…久元喜造市長、山村昭国際部長、池田りんたろう市議会議長

豊岡市…真野毅副市長

仙台市、白河市、富岡市、市川市、横浜市、新潟市、金沢市、甲州市、高山市、静岡市、彦根市、桜井市、広島市、高松市、熊本市、鹿児島市の各代表

○内 容：

10月5日から6日に、アンドル・エ・ロワール県トゥール市で開催された第5回日仏自治体交流会議（自治体国際化協会とフランス都市連合の共催）に出席し、「イノベーション～経済的ダイナミズムと国際的な輝きを日仏自治体にもたらずイノベーション～」をテーマに、全体会、分科会（①経済・産業・観光、②文化、③都市開発）により議論を行った。（別添資料1）

【10月5日】

(1)開会式（9時～10時45分）

フランス側推進委員長の**セルジュ・ババリー トゥール市長**からは「今回、トゥール市で第5回日仏自治体交流会議を開催し、日仏友好関係のさらなる強化に貢献できることを名誉に感じている。イノベーションという多様性のある広範なテーマに基づき、経済・産業・観光、文化、都市開発の3分野について、実りのある意見交換を行いたい」と、また、日本側推進委員長の**大西秀人高松市長**からは、「今回の議論の中心となるイノベーションは、まさに今、地域の活性化のために求められているテーマである」と挨拶された。

来賓として、**木寺昌人駐仏日本国特命全権大使**からは「2者間の交流ではなく、こうして一堂に会して共通課題である3分野について議論することは地域政策を進める上で大切なことであり、その成果を期待している」こと、また、**ベルトラン・フォール外務・国際開発省地方自治体対外行動局長**からは「フランスの地方自治体制度の構造改革が行われており、市民のために、どのように国際戦略に取り組むべきかという考え方が必要である」と挨拶された。



【ババリー トゥール市長挨拶】



【木寺駐仏日本国大使挨拶】



【会場全景】



【各自治体代表記念撮影】

(2) 全体会 (10時45分から12時)

日仏の自治体を代表して、最初に**金澤副知事**から「兵庫県とフランスの国際交流と次世代産業戦略」をテーマに、「兵庫県は4つのフランスの自治体と交流を行い、また、パリにヨーロッパ拠点としての事務所を設置する唯一の自治体である。今回の会議のテーマであるイノベーションの本県の取り組みとしては、次世代産業として、航空・宇宙、ロボット、次世代エネルギー、医療機器の4分野を設定し、その成長に向けて、大型放射光施設やスーパーコンピューターなどの研究基盤や企業支援の充実を図るとともに、41大学の集積による人材養成などに注力している」ことについて報告を行った。**(別添資料4)**

また、友好交流県のアヴェロン県の**ベルナル・ソール県議会副議長**からは「アンリ・ファブルをテーマとした研究交流、柔道交流、芸術・文化交流など、これまで兵庫県と共通する課題について、共同で取り組んできており、とても素晴らしいことである。フランスの自治体は構造改革の中で難しい時期にあるが、今後とも兵庫県との交流を大切にして国際交流を進めていきたい」との報告が行われた。

このほか、フランス都市連合、自治体国際化協会、富岡市、ナンシー市、トゥール大学から、それぞれ日仏の交流活動について報告があった。



【全体会での金澤副知事の報告】



【アヴェロン県ソール副議長の報告】

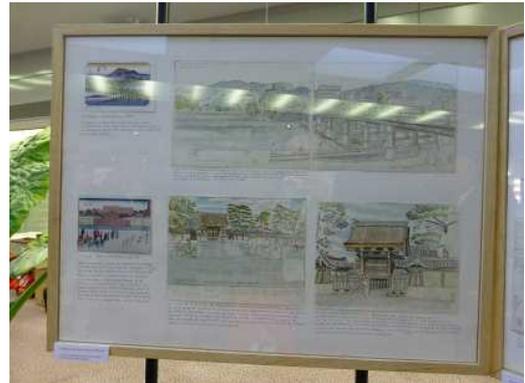
(3) フィリップ・ドロール特別展「東海道を行く」オープニングセレモニー（12時～12時30分）

歌川広重の「東海道五十三次」の浮世絵に魅せられ、広重の絵の景色を求めてスクーターで移動しながら、広重の絵に描かれた同じ場所で現在の風物の絵を描いているトゥール市の水彩画家、フィリップ・ドロールさんの展覧会のオープニングセレモニーが、関連イベントとして会場内で行われた。

ドロール氏は、サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会のメンバーでもあり、神戸での展覧会の開催について、神戸日仏協会の安福会長と相談をされている。



【ドロール氏（左から3人目）挨拶】



【展覧会の模様】

(4) 分科会（14時～16時30分）

午後の分科会では、金澤副知事は第1分科会【経済・産業・観光】に参加し、神戸市の**久元市長**から「Why choose KOBE?」をテーマに、「阪神淡路大震災以降、医療産業クラスターの構築を目指した「神戸医療産業都市構想」を進めており、現在、323企業・団体、8,100人の研究者・雇用者が集積していること、WHO神戸センターと連携して共同研究を行っている」ことなど、医療産業をテーマとした産業政策について報告が行われた。また、日本側からは静岡市、甲州市から、フランス側からは、トゥール市、ヴァルドワーズ県、オクシタニー州、マラコフ市から、姉妹都市との交流や経済・産業・観光の取り組みについて報告を行い、意見交換を行った。

また、第2分科会【文化】には、豊岡市の**真野副市長**が参加して、「近畿最古の芝居小屋の復元や城崎温泉の世界に向けた情報発信など、伝統文化を守り、育て、未来に引き継ぐ、小さな世界都市を目指す豊岡市の取り組み」について報告を行った。

なお、神戸市の久元市長は、今回の訪仏にあたって、マルセイユ市との姉妹都市提携 55 周年記念行事に参加、また、豊岡市の真野副市長は、ヴィレール・シュル・メール市との観光振興をテーマに関する会議に出席するなど、この会議への参加のほか独自のフランス自治体との交流活動を行なった。



【第 1 分科会に参加する金澤副知事】



【第 1 分科会の模様】

【10 月 6 日】

(1) 分科会報告 (9 時 30 分～10 時 30 分)

3つの分科会のフランス側、日本側のそれぞれの座長から分科会について報告が行われた。第 1 分科会の経済・産業・観光分野については、トゥール市長、静岡市長、第 2 分科会の文化分野については、ナンシー市助役、高松市長、第 3 分科会の都市開発分野については、シャルトル市、白河市長からそれぞれの分科会で討議された内容について説明があった。(別添資料 2)

(2) 閉会式 (10 時 30 分～11 時)

① 総括

ババリー フランス側推進委員長からは「フランスと日本は距離的には遠く離れているが、仏日の伝統文化の深さがあり、お互いの友情、信頼により、困難の時でも仲間として連携することができる。今回の会議をトゥール市で開催できて誇りに思う」と、また、大西日本側推進委員長からは「今回のノーベル賞で、日仏の研究者が受賞したが、両国間の自治体交流を通して、技術だけでなくさまざまな分野でイノベーションへの取り組みが行われており、地域の活性化に重要な役割を果たしている」と総括された。

また、来賓のティエリー・ダナ駐日フランス大使から「この仏日自治体会議は重要な取り組みである。これまで、フランスと日本の交流は、外交官など国を中心に行われていたが、現在は、大学、企業、若者などによって担われており、そうした中で自治体の役割が重要になって来ている。安倍首相とバルス首相は、2015 年から 2016 年を日本フランスイノベーション年として位置づけ、両国でイノベーションに関する様々なイベントを展開しており、その総括として今年 12 月に大阪で日仏イノベーションに関するイベントを開催するので是非参加ください」と挨拶された。



【ダナ駐日フランス大使】



【ババリー市長】



【大西高松市長】

②最終宣言

第5回日仏自治体交流会議の議論を取りまとめて、**フォール フランス外務・国際開発省地方自治体対外行動局長**から「今回の会議を経て参加者は、イノベーションをテーマに、経済・産業・観光、文化、都市開発の様々な地方政府の現状と視点を再び共有し突き合わせる機会となり、地方自治体交流の成果を新たに実感した。トゥール会議の開催は、日仏交流・友好の促進に大きく貢献した。この視点に立って、我々は、日仏自治体交流会議推進委員会を継続することにより、より緊密な協力を維持することを決意する。2018年に第6回会議を熊本市で開催することで、この実りの多い交流を再現することで合意する」という最終宣言が発表された。



（別添資料2）

【最終宣言を発表するフォール事務局長】

③第6回日仏自治体交流会議（2018年）の開催地発表

2018年の第6回日仏自治体交流会議の開催地に決定した熊本市の大西一史市長から「熊本市の概要と新たなまちづくり」について、説明があった。

今年の4月の熊本地震により、熊本城をはじめ大きな被害を受けたが、姉妹都市のエクサンプロヴァン市と同様に、上質な生活都市に向けて、震災からの復旧・復興を行い、日仏交流160周年を迎える2018年の同会議の開催を成功させたいとの決意が表明された。



【概要等説明を行う熊本市の大西市長】

(2) 友好交流県等との交流促進

① 友好交流県アンドル・エ・ロワール県との交流協議

○日 時：平成 28 年 10 月 5 日（水）17:30～18:40

○場 所：アンドル・エ・ロワール県庁舎

○参加者：

【アンドル・エ・ロワール県側】

ファブリス・ボワガール副議長、エティエヌ・マートグット県議会議員、ロメイン・ミマウルト-ラボウテ官房長

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長、安福幸雄神戸日仏協会会長

○内 容：

アンドル・エ・ロワール県とは、1991 年 4 月、甲南学園のフランス校として「フランス甲南学園トゥレーヌ（トゥレーヌ甲南）」が開校したことをきっかけに、経済交流などの交流を行ってきた。同校は、2013 年 2 月に閉校となったが、その後、サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会が設立され、今回、神戸日仏協会との交流の推進に関する協定書を締結することとなり、同県との交流 25 周年にもあたることから、安福神戸日仏協会会長とともに、同県を訪問した。

サンシール市の第一助役でもある**ボワガール副議長**からは「トゥレーヌ甲南がサンシールを選んでもらってとてもありがたく思っていた。妻が看護師の関係もあり、同校で勤務していた看護師さんに私の自宅で 3 年間ホームステイしていただいた。現在は連絡が取れなくなっているが、日本を訪問したことがないので、この方を訪ねて日本に行きたいと思っている。また、兵庫県との交流は、これまでの政権の方向性もあり、最近はあまり活発には行われて来なかったが、今後は観光などの交流を積極的に進めて行きたい。特に、マートグット県議会議員が観光振興公社の代表としても担当する観光分野は、本県にとって重要な産業であり、古城、ワインなど観光資源も豊富であり、日本からの観光客に是非多く来てほしい」と話された。

金澤副知事からは「兵庫県とアンドル・エ・ロワール県との交流は、近年、トゥレーヌ甲南の活動に限定されていたのが実情であるが、本県は日本の自治体として唯一パリに事務所を持っており、今後は観光をはじめ他の分野にも交流を広げていきたい。今年は交流を始めて 25 周年に当たるが、次回の 30 周年では、是非、県民交流団と一緒に訪問できればと思う」と話した。

安福会長からは「トゥレーヌ甲南の活動には、設立から一番長く関わってきており、理事長もしていた。ボワガール副議長のご自宅に3年間ホームステイさせていただいた看護師の方はすぐに調べてご報告したい。トゥレーヌ甲南が閉校になったことは、たいへん残念なことであったが、明日、神戸日仏協会とサンシール・シュール・ロワール日友好協会の交流提携によって、両地域の子供たちのホームステイなどの交流を今後行っていきたい」と話された。



【ボワガール副議長との交流協議】

【ボワガール副議長と金澤副知事、安福会長】

②友好交流県アヴェロン県との交流協議

○日 時：平成 28 年 10 月 5 日（水）12:30～14:00

○場 所：日仏自治体交流会議会場

○参加者：

【アヴェロン県側】

ベルナル・ソール県議会副議長、マチュー・ダノン プロジェクトマネージャー

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長、真野豊岡市副市長

○内 容：

今回の会議に出席されたアヴェロン県のソール副議長と両地域の交流について協議を行った。

ソール副議長からは「兵庫県との交流は、会議でも説明したように、アヴェロン県にとって大切な国際交流となっている。昨年の7月の井戸知事のアヴェロン県来県時に、兵庫県立美術館の蓑館長とともに、スーラージュ美術館を訪問いただいた。同県のロデーズ出身の近代画家ピエール・スーラージュ氏の兵庫県立美術館での開催について相談したところだが、それと同じタイミングで、兵庫県立美術館が所蔵する「具体美術」の作品展をスーラージュ美術館で開催できないかと考えている。スーラージュ美術館は近代芸術にふさわしい建築の美術館である」との発言があった。

金澤副知事から「ソール副議長から提案のあったスーラージュ展と具体美術展が相互に両県の美術館で開催できるよう兵庫県立美術館と相談したい」と答え、今後、こうした芸術分野での両地域の相互交流を促進していくことを確認した。

また、今年8月には、豊岡市の中貝宗治市長が、アヴェロン県で「水」をテー

マとして開催された総合文化イベントに参加し、日本人の生活に溶け込んだ水との親しみの観点から温泉文化として城崎温泉を紹介している。



【ソール副議長と金澤副知事】

③友好交流県セヌ・エ・マルヌ県との交流協議

○日 時：平成 28 年 10 月 7 日（金）16:00～20:00

○場 所：フォンテーヌブロー城

○参加者：

【セヌ・エ・マルヌ県側】

パトリック・セプティエ副議長、ジェネビエーブ・セール副議長、マルティヌ・バロー副議長、フランソワ・グザビエ・ドゥフルー経済振興公社事務局長

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長

○内 容：

セヌ・エ・マルヌ県と本県と交流は、1991 年から人物交流事業を行うなど、継続した交流を行っている。友好交流 25 周年を機に、同県を訪問し、3 名の副議長と今後の交流に向けた協議を行った。

青少年教育を担当する**セール副議長**からは「青少年はアニメをはじめ日本への興味が深い。若い頃からの国際教育は今後の成長に大切な要素であり、是非、兵庫県の青少年との交流を進めて行きたい。セヌ・エ・マルヌ県として、何ができるか検討してご連絡したい」、また、スポーツを担当する**バロー副議長**からは「兵庫県とスポーツを通じた新たな交流ができないか」との提案があった。

金澤副知事からは「今回、世界遺産のフォンテーヌブロー城において、交流の場を設定いただき光栄である。両県の交流を積極的に支援いただいているバルボー議長をはじめ、セヌ・エ・マルヌ県の皆様方に深く感謝申し上げます。兵庫県とセヌ・エ・マルヌ県とは、25 年に渡って友好訪問団や経済交流団の派遣を重ねてきたほか、特に、兵庫県からの日仏交流コーディネーターの派遣、また、セヌ・エ・マルヌ県からの企業研修生の派遣を 1991 年から継続して実施してきており、セール副議長から提案のあった青少年の国際交流も有益なものと思う。また、バロー副議長から提案のあったスポーツ交流については、関西ワールドマスタースゲームズ 2021 への参加をお願いするとともに、高齢者の健康維持のためのスポーツへの取り組みを進めており、セヌ・エ・マルヌ県と新たな交流を進めていきたい」と話した。

また、交流協議の前に、会場となった世界遺産のフォンテーヌブロー城の視察を

3名の副議長とともにいった。



【3名の副議長と金澤副知事】



【フォンテーヌブロー城】

④神戸日仏協会・サンシール・シュール・ロワール仏日協会調印式への出席

○日 時：平成28年10月6日（木）12:30～13:30

○場 所：サンシール市庁舎

○参加者：

【神戸日仏協会・サンシール・シュール・ロワール仏日協会側】

安福幸雄神戸日仏協会会長、保井円サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会会長

【アンドル・エ・ロワール県、サンシール市側】

ファブリス・ボワガール アンドル・エ・ロワール県副議長、フランシーヌ・ルマリエ サンシール・シュール・ロワール国際担当助役

【兵庫県側】

金澤副知事、久元神戸市長、池田神戸市議会議長、水口国際局長、横川パリ事務所長

○内 容：

2013年のフランス甲南学園トゥレーヌ（トゥレーヌ甲南）閉校後に設立されたサンシール・シュール・ロワール仏日友好協会と神戸日仏協会の両協会間で、交流推進に関する協定書の締結が行われた。協定の内容は、①両協会は、会員が語学研修や文化探訪・観光等で訪問する場合は、ホームステイはじめ、会員の活動が円滑に進められるように便宜を図る、②両協会は、相互の文化に関する理解を深めるため、工芸作家等の芸術・文化分野の交流を促進し、その活動が円滑に進められるよう支援することなどである。

（別添資料3）

兵庫県からは金澤副知事、神戸市の久元市長、アンドル・エ・ロワール県のボワガール副議長、サンシール・シュール・ロワール市のブリアン市長代理としてルマリエ助役が立ち会った。

安福会長からは、「トゥレーヌ甲南には一番長く関わってきており、理事長も務めた。その間、ブリアン市長、ルマリエ助役、また、ホームステイなどで市民の方々にたいへんお世話になった。今後は保井会長とともに、神戸市とサンシール・シュール・ロワール市の間で草の根交流を進めて行きたい」と、また、保井会長からは、「23年間に渡り、トゥレーヌ甲南の教頭として勤務し、和太鼓グループの活動や、

同市の姉妹都市であるセネガルのクサナール市を生徒とともに訪問し学校支援を行うなど、多くの貴重な経験をさせていただいた。学校は閉校になったが、その思いは、こころネッサンスの地で、サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会として生まれ変わった」と挨拶された。

金澤副知事からは、「トゥレーヌ甲南の設立がきっかけとなって、兵庫県とアンドル・エ・ロワール県との交流が始まって、今年で 25 年になる。しかし、これまで、同校の存在に安心し過ぎていて、両県の交流に広がりやを欠いていた。昨日、ボワガール副議長を訪問し、今後の両県の交流を深めていくことを確認した」と、**ボワガール副議長**からは、「皆様の努力で両協会の提携ができ、今後、兵庫県とアンドル・エ・ロワール県の新たな交流に発展していくものである」と挨拶された。

久元市長からは、「緑豊かなサンシール・シュール・ロワール市はフランスの原点としての奥行きがある。神戸も日本を代表する都市として多くの人を迎えるよう努力して行きたい」と、また、**ルマリエ助役**からは、「1991 年にトゥレーヌ甲南が生まれ、2013 年に廃校になるまで、同校を通じて、両国の文化など価値観を共有してきた。今回の両協会の協定は大きな意味を持ち、また、ブリアン市長の代理として素晴らしい瞬間に立ち会えることを誇りに思う」と挨拶された。

また、夕方には、サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会会員の手作り料理による交流会がトゥレーヌ甲南の跡地にある同協会で開催された。



【金澤副知事挨拶】



【調印式】

⑤神戸北野・山本地区と交流を行うモンマルトルの丘ワイン祭への参加

○日 時：平成 28 年 10 月 8 日（土）10:00～12:00

○場 所：モンマルトルの丘

○参加者：

【モンマルトル観光協会】

シルヴィ・フレモン会長、ティエリー・シャンピオン副会長、フレデリック・ルー副会長

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長、浅木隆子北野・山本地区をまもり、そだてる会会長

○内 容：

2005年から神戸市の「北野・山本地区をまもり、そだてる会」が交流を続ける「モンマルトル観光協会」が主催するワイン祭の会場をフレモン会長、チャンピオン副会長、浅木会長の案内で、灘五郷の日本酒の試飲を行う神戸市と同会のブースをはじめ、フランスの全国から集まるワイン、チーズ、ソーセージなど、地域の特産品のブースの視察を行った。

モンマルトルの丘は世界から観光客が訪れる場所であり、浅木会長の熱い思いにより、2005年に北野・山本地区との提携に結びついたものであり、その後、双方での看板の設置、相互訪問など、親密な交流が続いている。



【モンマルトル・北野提携の看板の前で】

【神戸市・同会のブース】

(3) フランス柔道連盟との面談及び柔道場見学

○日 時：①平成 28 年 10 月 7 日（金）13:00～15:00

②平成 28 年 10 月 8 日（土）17:40～18:20

○場 所：①パリ市内日本食レストラン、②パリ近郊バニユー市立柔道場

○参加者：

【①フランス柔道連盟側】

ジャン・ルック・ロジェ会長、エリック・ビヨン副会長、ジャン・クロード・セノー理事

【②柔道場視察】

マリ・エレヌ・アミアブル バニユー市長、川石則一氏（フランスの柔道の父と言われる川石酒造之助のご子息）

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長

○内 容：

【①フランス柔道連盟】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に際し、仏柔道選手団による本県での事前合宿招致に向けて、フランス柔道連盟のロジェ会長、ビヨン副会長等と面談を行った。ロジェ会長、ビヨン副会長は、友好提携先のアヴェロン県出身とのことであり、本県とアヴェロン県との柔道交流などを行っていることなど、フラン

ス自治体との交流、ホストタウンとして誘致を行う姫路市の魅力について説明を行った。また、リオパラリンピックの柔道では、アヴェロン県、兵庫県双方の選手が活躍するなど、明るい雰囲気で見学を行った。

ビヨン副会長は、以前、神戸を訪問されたことがあるが、ロジェ会長はなく、今年の12月に国際大会への参加のため、東京を訪問される予定であり、是非、兵庫県にお越しをいただくようご案内した。



【ロジェ会長(中央)、ビヨン副会長(左)と金澤副知事】

【②柔道場視察】

また、フランスを柔道大国に導いた「フランスの柔道の父」と言われる姫路市出身の川石酒造之助氏のご子息の川石則一さんが指導されているパリ郊外の柔道場の視察を行った。酒造之助氏は、1935年に柔道の普及のため渡仏し、苦勞をしながら、柔道の技や帯の色など、フランス人が理解をし易いように体系化した「川石メソッド」による指導を行った。

道場には、兵庫県出身の柔道の創始者である嘉納治五郎氏、そして、川石酒造之助氏の写真が飾られ、小学生たちは、川石メソッドで決められたレベルごとに異なる色帯をして、柔道の練習が行われており、川石氏、また、道場を設置するバニユー市アマブル市長と一緒に見学を行った。

川石氏は、柔道連盟の理事もされており、兵庫県での事前合宿誘致について、ロジェ会長に話をいただいているとのことであった。

今後とも、パリ事務所等を通じて、本県での事前合宿誘致に向けた取り組みを進めていく。



【練習風景】



【川石氏、アマブル市長、練習生との記念写真】

(4) 本県進出企業エアバス・ヘリコプターズ社の仏工場訪問

○日 時：平成 28 年 10 月 7 日（金）9:30～12:00

○場 所：パリ近郊 ル・ブルージェ工場（新工場）
ラ・クールヌーブ工場（旧工場）

○参加者：

【エアバス・ヘリコプターズ社側】

ルーラント・プラット所長、フィリップ・ゲゲン北アジア総括部長、オリビエ・ティエリ エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン業務本部長、フランク・デュシェネ ブレード施設部長

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長

○内 容：

兵庫県に進出しているエアバス・ヘリコプターズ社のパリ近郊にある新旧の工場を訪問して、同社の世界での事業展開の取り組みや、ブレード（羽根）の製造現場の見学を行った。同社は、2015 年の民間・官公庁市場において、世界で生産された全 627 機のうち 45%と高いシェアを占めている。同市場の用途としては、救急医療、警察、消防・海上警備、捜索救難、海上輸送、ビジネス及び自家用などである。また、川崎重工業とは、共同開発を行っている。

【ル・ブルージェ工場】

プラット所長からは「ラ・クールヌーブの工場の歴史は長く、1917 年から軍事用の飛行機を製造し、その後ヘリコプターを初めてフランスで製造した工場であるが、老朽化と手狭になったことにより、ブレードなど重要な部品の製造と営業機能をラ・クールヌーブ工場に残して、そのほかの製造部門は南フランスのマリニャヌ工場に移転した。今年の 9 月 19 日からは、ラ・クールヌーブの機能も、4 キロ離れたル・ブルージェ空港に近接するル・ブルージェ工場に 6 か月かけて移転を進めている。新工場にお迎えする最初の訪問者である」と説明があった。



【プラット所長と金澤副知事】

金澤副知事からは「フランス企業として、兵庫県でがんばっていただいていることに感謝申し上げます。また、エアバス・ヘリコプターズ・ジャパンのジヌー社長には、井戸知事との意見交換の会議にも参加していただいている。兵庫県はフランスの 4 つの自治体と交流を行っており、また、パリに事務所を設置する唯一の自治体として、フランスと一番縁の深い自治体であり、御社との関係を今後とも深めて行きたい」と話された。

【ラ・クールヌーブ工場】

神戸空港事業所に勤務するティエリ業務本部長は、移転作業が行われているラ・クールヌーブ工場に 15 年間の勤務経験があり、同部長の案内で、ブレードの製造・修理の現場の視察を行った。渡仏前に、神戸空港事業所の視察を行ったが、整備や修理に

当たっては、技術者の手作業が多かったところ、同工場での生産工程におけるブレードの製造・修理についても同様に技術者による手作業中心に行われていた。

この理由としては、ヘリコプターは、自動車などに比べると生産台数も少なく、用途ごとに改良が必要であるなど、機械での製造も可能であるが、現在は技術者の職人技による手作業による工程がコスト、品質面で優位とのことであった。



【ラ・クールヌーブ工場内
ティエリ部長（左から2人目）】

(5) 在兵庫県人会との交流会

○日 時：平成 28 年 10 月 8 日（土）19:00～22:30

○場 所：パリ市内レストラン

○参加者：

【在兵庫県人会】

稲葉会長ほか会員 9 名

セヌ・エ・マルヌ県派遣日仏コーディネーター 大渕みどり

【兵庫県側】

金澤副知事、水口国際局長、横川パリ事務所長

○内 容：

稲葉会長をはじめ、在兵庫県人会の会員と、最近のフランスと日本の動向について意見交換を行うなど、交流を行った。稲葉会長は旧出石町（現豊岡市）の出身の画家であり、会員の中には、画家や日本伝統文化の染物に関わる方もおられ、パリ事務所での展覧会を行うなど、芸術を通じた交流も行っている。

また、同会には、セヌ・エ・マルヌ県の日仏交流コーディネーターとして派遣され、10月3日に到着した大渕みどりさんも参加され、県人会の会員との交流を図った。

4. 渡航日程

日 時	日 程	宿泊地
10月4日(火)	関空発 パリ着／パリ発、トゥール着	トゥール泊
10月5日(水)	第5回日仏自治体交流会議(全体会、分科会、交流会) アヴェロン県との交流協議 アンドル・エ・ロワール県との交流協議	トゥール泊
10月6日(木)	第5回日仏自治体交流会議(最終宣言) 神戸日仏協会・サンシール・シュール・ロワール日 友好協会の友好提携調印式 日仏協会関係者等との交流	パリ泊
10月7日(金)	エアバス・ヘリコプターズ社工場視察 フランス柔道連盟との面談 セヌ・エ・マルヌ県との交流協議	パリ泊
10月8日(土)	兵庫県パリ事務所訪問 モンマルトルの丘ワイン祭への参加 パリ近郊柔道場視察 在仏兵庫県人会会員との交流	パリ泊
10月9日(日)	パリ発	機中泊
10月10日(月・祝)	関空着	

(問い合わせ先)

産業労働部国際局国際交流課交流企画班

TEL: 078-362-3026

第5回日仏自治体交流会議－トゥール市
プログラム

2016年10月5日（水）

- 09:30 - 10:45 第5回日仏自治体交流会議開会式(開会式・全体会会場:Descartes)
主催者・来賓による挨拶
(トゥール市長、高松市長、駐仏日本国特命全権大使、仏外務・国際開発省地方自治体対外事業局局長)
- 10:45 - 12:00 全体会
発表(フランス都市連合、自治体国際化協会、兵庫県、アヴェロン県、富岡市、ナンシー市、トゥール大学)
- 12:00 - 12:30 フィリップ・ドロール特別展「東海道を行く」オープニングセレモニー
- 14:00 - 16:30 分科会：①経済-産業-観光/ ②文化・イノベーション/ ③都市開発
(分科会会場：Centre de Congrès Vinci)
- 17:30 サンシール・シュール・ロワール日仏友好協会の太鼓ショー(トゥール駅前広場)
- 19:00 ヴィランドリー城・庭園見学
19:30 高松市玉藻公園・ヴィランドリー庭園・トゥールの公園の3者連携協定式
20:00 ガラディナー

2016年10月6日（木）

- 09:30 - 10:30 分科会報告会
- 10:30 - 11:00 閉会式
挨拶(ババリー・トゥール市長、大西高松市長、ダナ駐日フランス大使)
- 11:00 最終宣言
発表者(フォル・フランス外務・国際開発省地方自治体対外事務局局長)
- 11:30 第6回会議の開催地紹介
- 12:00 記者会見

【仮訳】

第 5 回日仏自治体交流会議

最終宣言

フランスの 20 自治体と日本の 19 自治体の代表を含む我々参加者は、2016 年 10 月 5・6 日、仏トゥール市において第 5 回日仏自治体交流会議を開催し、以下の「トゥール宣言」を採択した。

ナンシー市と金沢市のイニシアチブで 2008 年に初めて開催された日仏自治体交流会議は、2010 年 5 月の第 2 回金沢会議、2012 年 8 月の第 3 回シャルトル会議、2014 年 10 月の第 4 回高松会議で、多大な成功を収めた。第 5 回会議（以下「トゥール会議」と略す）は、ユネスコ世界遺産に指定されているロワール渓谷の中心に位置するトゥール市で開催された。

日仏自治体交流会議の重要性は、2013 年 6 月と 2014 年 5 月の日仏首脳会議の後に発表された共同声明の中でも強調されている。

日仏自治体交流会議は、2013-2018 年を対象とした日仏間協力のためのロードマップの中の目標 17「地方自治体交流の深化」に則り、開催毎に重要会合としての地位を強めている。今回の会合は、日仏関係が、2016 年年初来、政府・地方自治体の両レベルにおいて様々なイベントが開催され、より実り多いものになっている文脈の中で開催された。

この会議は、日仏地方自治体間の交流と二国間関係に多大に貢献し、経済分野及び持続可能な開発分野でのグローバリゼーションへのチャンスをよりよく掴む機会となる。ここでのグローバリゼーションはとりわけ、経済、学術、文化、観光の領域において、新たな展望を開くものである。この新たな発展は、日仏両国や我々の自治体の活性化、さらには我々の自治体の住民の生活クオリティ向上に貢献するものである。

日仏自治体交流会議は、日仏自治体間の姉妹都市やパートナーシップという

枠組みを超えるものである。つまり、日仏自治体の代表が集い、協議し、伝統と近代性を両立させるための発展戦略と既に実施されたプロジェクトを報告する場であると同時に、我々の歴史、素晴らしい歴史的遺産、強み及びノウハウを総括する場であり、イノベーション、創造性、研究、インテリジェンスに基づいた自治体の活力を生み出す場でもある。

今回のトゥール会議は、これまでの会議の延長線上にあり、共通の問題の解決を目指して、経験の共有という作業を一層深化させることを目的としている。会議での議論は、互いに包摂的なテーマを持った、経済、文化、都市開発の3つの分科会において行われた。日仏両国は、象徴的な了解事項を特定し、永続的なプロジェクトを支援することに努めた。

トゥール会議は、「イノベーション～経済的ダイナミズムと国際的な輝きを日仏自治体にもたらすイノベーション～」をテーマとした。

日仏自治体交流は、非常に活発かつダイナミックであり、幅広い分野に及ぶ。今回の会議でも、経済・技術・学術交流、高齢化社会とシルバーエコノミー、観光、文化協力、歴史的遺産の再活用、都市空間の変容、スマート・シティなど、作業の対象となる議題は多岐に渡った。

日仏地方自治体は、上に挙げた3つの分科会において、様々な経験と活動を報告し、それらの発展を続けるための方策を共同で追求した。

- 第1分科会：経済・産業・観光
- 第2分科会：文化
- 第3分科会：都市開発

経済・産業・観光

国際的な競争が激化する中、イノベーションを生み出す技術力の高さを説明する上で、国と地方の特質が重要であることは明らかである。

地域経済を振興し、最後の結論を導き出すためには、各地方の産業の発展を促すことが重要であると認識している。

よって、以下を提起する：

・産官学の活動をコーディネートする産業クラスター戦略を通して地域のリソースを集中させ、日仏の産業クラスター間の交流の活性化すること。

・国での政策に加え、地方自治体はそれぞれのレベルでの公共政策を通じて、ビジネスの環境を整え、産業の発展、企業家精神の涵養、イノベーションの支援をすること。

・自治体の政策により、有望な企業、特に中小企業の海外との交流を促進すること。

・様々な観光リソースを動員し、それぞれの地域の優れたアイデンティティ、地産品（特に食）や工芸、特長を活かすと同時に、日仏間の善意に溢れた協力精神の下で、地域資源を国内外のネットワークに結びつけることによって、それぞれの地域の魅力をアピールすること。

・質が高く、持続可能な観光を促進すること。文化と歴史的遺産は、すべての人々にとって、またすべての人々による、あらゆるところでの交流と対話の普遍的な手段である。

文化

我々自治体は、市民が建築と遺産が自分たちのものであると考えることの重要性を認識するものであり、知識を積極的に活用し、保護活動に取り組み、仲介し、支援することによって、質の高い建築と生活環境を目指すことを約束する。

我々は、文化と歴史的遺産が、すべての人々にとって、またすべての人々によ

る、あらゆるところでの交流と対話の普遍的な手段であると考え。文化と歴史的遺産は、我々の都市及び田園地帯における経済と観光発展の媒介者であり、当事者である。

よって、以下を提起する：

-積極的な政策アプローチの下で、それぞれのプロジェクトを実施すること。あらゆるプロジェクトは、自治体の政策決定者や職員だけでなく、歴史的遺産の活用と生活環境の形成に貢献している地域レベルの関係者を支援するため、横断的なアプローチの下に置かれなければならない。

-過去と現在をあわせてプレゼンテーションすることにより、都市と地域は市民にとって知識の源泉となり、討論の場となる。

都市開発

各自治体は、様々な持続可能な都市開発プロジェクトに取り組んでいるが、そのうち、特有の支援を必要とするような、非常に革新的・野心的なプロジェクトは、地球温暖化対策やグリーン経済の振興に取り組むため、都市が変化していく上で、非常に重要である。

我々は、これらのプロジェクトを実現させることが、エネルギー消費量のより少ない、人間と自然をより尊重する新たな都市環境を作り上げるための一歩につながると認識している。

よって、以下を提起する：

-都市と地域の特色を際立たせるあらゆる地元の強みを通じて、都市と地域を前進させるため、豊かな歴史、ダイナミズム、未来を含んだアイデンティティなどのあらゆる要素を取り込む。

・「財産」の概念を最大限に捉え、建築物だけでなく、自然や有形無形の文化、産業、海洋を含むものとする。

・市民が、自分たちが自分たちの生活環境のアクターであることを自覚するように、市民に向けて建築、財産、都市開発、生活環境、景観に関する啓発活動を行う。このような市民の取り込みを、地方民主主義の成熟度を示す証として、奨励する。

結論

今回の会議を経て参加者は、様々な地方政策の現状に関する情報と視点を再び共有し、突き合わせる機会となった地方自治体交流の成果を新たに実感した。

トゥール会議の開催は、日仏交流・友好の促進に大きく貢献した。

この視点に立って、我々は、日仏自治体交流会議推進委員会を継続することにより、より緊密な協力を維持することを決意する。

2018年に第6回会議を熊本市で開催することで、この実り多い交流を再現することで合意する。

2016年10月6日 フランス国トゥール市にて

5e Rencontres franco-japonaises de la coopération décentralisée

DECLARATION FINALE

Nous, participants des 5^e Rencontres franco-japonaises de la coopération décentralisée dont les représentants des 20 collectivités territoriales françaises et des 19 collectivités japonaises, réunis à Tours (France) du 05 au 06 octobre 2016, adoptons la « Déclaration de Tours » suivante :

Les Rencontres franco-japonaises de la coopération décentralisée, organisées pour la première fois à Nancy à l'initiative des villes de Nancy et de Kanazawa en 2008, ont connu un grand succès lors des Deuxièmes Rencontres à Kanazawa en mai 2010, des Troisièmes à Chartres en août 2012, des Quatrièmes à Takamatsu en octobre 2014. Les Cinquièmes Rencontres (désignées ci-dessous par « les Rencontres de Tours ») se sont tenues à Tours, ville située au cœur du Val de Loire - patrimoine mondial de l'UNESCO.

A cet effet, l'importance de ces Rencontres a été soulignée dans les communiqués conjoints franco-japonais suite aux réunions entre le Président de la République française et le Premier ministre japonais, en juin 2013 et mai 2014.

Les Rencontres franco-japonaises de la coopération décentralisée s'imposent, à chaque édition, comme un rendez-vous majeur, comme cela a été d'ailleurs mentionné par la Feuille de route pour la coopération franco-japonaise 2013-2018, dans l'Objectif N°17 : Approfondir la coopération décentralisée. Ces Rencontres se sont tenues dans le contexte d'une actualité franco-japonaise fructueuse et riche en événements depuis le début de l'année 2016, tant au niveau gouvernemental que dans les collectivités.

Aussi cet espace de dialogue que sont les Rencontres permet d'apprécier la contribution importante de la coopération entre les collectivités territoriales japonaises et françaises aux relations bilatérales et ainsi mieux bénéficier des opportunités de la mondialisation dans les domaines économiques et du développement durable. Cette mondialisation ouvre, en effet, de nouvelles perspectives positives, particulièrement dans les milieux économique, universitaire, culturel et touristique. Ce développement innovant contribue ainsi

au dynamisme de nos deux pays, nos territoires et à une meilleure qualité de vie des citoyens de nos collectivités.

Les Rencontres franco-japonaises de la coopération décentralisée dépassent le cadre habituel des échanges bilatéraux entre collectivités franco-japonaises jumelées ou partenaires. En effet, il s'agit d'assises au cours desquelles les représentants de collectivités locales de nos deux pays se concertent, se rassemblent et présentent des stratégies de développement et des projets mis en œuvre afin de concilier tradition et modernité, de faire la synthèse entre une histoire, un patrimoine exceptionnel, des atouts et des savoir-faire et dans lesquels puiser une vitalité fondée sur l'innovation, la créativité, la recherche, l'intelligence de nos territoires.

A ce titre, ces Rencontres de Tours s'inscrivent dans la continuité des éditions précédentes, avec pour objectif l'approfondissement du travail d'échange d'expériences, en vue de résoudre des problématiques communes. Les discussions, aux thématiques inclusives, ont été organisées en trois volets dans les domaines de l'économie, la culture et l'urbanisme. Les deux pays ont pris soin d'identifier des rapprochements emblématiques et à soutenir des projets pérennes.

Les présentes « Rencontres de Tours » avaient pour thème : « L'innovation facteur de dynamisme économique et de rayonnement international pour les collectivités locales japonaises et françaises »

Les coopérations décentralisées franco-japonaises sont actives et dynamiques, et ce dans des domaines très variés. Les interventions ont abordé une large palette d'actions parmi lesquelles : échanges économiques, technologiques, universitaires, vieillissement de la population et « silver » économie, tourisme, coopération culturelle, réappropriation de patrimoines anciens et métamorphose d'espaces urbains, ville connectée, etc...

Les collectivités locales françaises et japonaises, réparties en trois ateliers, ont fait part de leurs différentes expériences et de leurs actions, et ont recherché ensemble des mesures pour continuer à les développer dans la durée.

- Atelier 1 - Économie, Industrie, Tourisme
- Atelier 2 - Culture
- Atelier 3 – Urbanisme

Economie – Industrie – Tourisme

Dans un contexte de compétition mondiale aiguisée, il est avéré de l'importance des spécificités nationales et régionales dans l'explication des performances technologiques des systèmes d'innovation.

Nous reconnaissons l'importance qu'il y a à promouvoir le développement des industries de chaque région afin de relancer les économies locales, et en tirons les conclusions suivantes.

Pour ce faire, nous proposons de :

- Concentrer les ressources territoriales à travers la stratégie de pôles d'excellence qui coordonne les industries, les institutions et les universités et dynamiser les échanges entre ces pôles entre la France et le Japon.
- Aménager le cadre d'activité économique, accompagner le développement, favoriser la culture entrepreneuriale, et encourager l'innovation par le biais de politiques publiques à chaque niveau de collectivité territoriale, en sus des politiques nationales.
- Favoriser les entreprises, en particulier les PME - à fort potentiel à se développer et à échanger à l'échelle internationale par l'action des pouvoirs publics.
- Communiquer sur l'attractivité des territoires, en coordonnant les diverses ressources touristiques, en valorisant les identités remarquables, les produits phares des régions notamment gastronomiques et les métiers d'art, les singularités de chaque territoire et en créant un réseau opérant qui relie les différents atouts au local et à l'international, dans un esprit de coopération bilatérale, de partage et de bienveillance.
- Inciter à un tourisme de qualité et responsable. La Culture et le Patrimoine sont des moyens d'échanges et de dialogue pacifique, d'échanges mutuels, par tous, pour tous et partout.

Culture

Nos collectivités conscientes des enjeux que représente l'appropriation de leur architecture et de leur patrimoine par les habitants, s'engagent toujours plus dans une démarche active de connaissance, de conservation, de médiation et de soutien et à la qualité architecturale et du cadre de vie.

Nous reconnaissons la culture, les patrimoines comme un moyen universel d'échanges et de dialogue entre les peuples, pour tous, par tous et partout. Ce sont des vecteurs et des facteurs de développement économique et touristique pour nos territoires urbains et ruraux.

Nous proposons de :

- Inscrire chaque projet dans une démarche de politique publique volontariste. Il s'agit que tout projet repose sur un dispositif transversal à l'action du territoire pour mieux accompagner les décideurs et les agents publics, mais aussi l'ensemble des acteurs locaux qui participent à la valorisation du patrimoine et à l'élaboration du cadre de vie.
- Présenter la ville et le territoire comme étant un centre d'interprétation. Les nouveaux outils numériques présentent de manière didactique l'architecture, le patrimoine et le paysages. Véritable équipement de proximité, cet espace est également un lieu de ressources et de débat pour la population, propre à la présentation de l'histoire mais aussi à celle des projets d'aménagement contemporains.

Urbanisme

Les projets d'urbanisme durable sont nombreux mais certains projets très innovants et ambitieux demandent une attention particulière. Ce sont des stratégies de métamorphose urbaine qui s'inscrivent en faveur de la lutte contre le dérèglement climatique et bien sûr, l'économie verte.

Nous reconnaissons que ces projets sont autant d'avancées, réalisées pour développer un nouveau mode de vie urbain plus économe en énergie, plus respectueux des hommes et de leur nature.

Nous proposons de :

- Inscrire la ville et les territoires dans une démarche d'intégration de tous les éléments qui contribuent à l'identité d'une ville et plus largement

d'un territoire riche de son passé et fort de son dynamisme et de son avenir, par tous ces atouts qui les singularisent et les caractérisent de manière remarquable.

- Concevoir le terme de patrimoine dans son acception la plus large, puisqu'il concerne aussi bien l'ensemble du patrimoine bâti de la ville que les patrimoines naturel, culturel (matériel et immatériel), industriel et maritime.
- Sensibiliser les habitants à l'architecture, au patrimoine, à l'urbanisme, à leur cadre de vie et au paysage afin de les conduire à se considérer comme acteurs de leur cadre de vie. Cette appropriation des habitants, témoignage de maturité de la démocratie locale, sera encouragée.

Conclusion

A l'issue de ces journées, les participants sont convaincus de la pertinence des Rencontres franco-japonaises de la coopération décentralisée, qui ont une nouvelle fois permis de partager et de confronter des informations et des points de vue sur différentes situations de politiques locales.

L'organisation des Rencontres de Tours a permis de contribuer grandement à la promotion des échanges et des liens d'amitié entre la France et le Japon.

Dans cette perspective, nous décidons de maintenir une étroite collaboration entre nous par la prolongation des comités de pilotage en France et au Japon.

Des échanges fructueux que nous convenons de reconduire par la tenue des Sixièmes Rencontres de la coopération décentralisée franco-japonaises à Kumamoto (Japon) en 2018.

Fait à Tours le 6 octobre 2016.



神戸日仏協会とサンシール・シュール・ロワール日仏友好協会間の交流の推進に関する協定

1991年、甲南学園は、アンドル エ ロワール県サンシール・シュール・ロワール市（以下、「サンシール」）にトゥレーヌ甲南学園高等部・中等部（後にフランス甲南学園トゥレーヌに改名）を開校し、地域にあたたかく迎えられ、2013年2月までの22年間での637人の卒業生を送り出した。

トゥレーヌ甲南学園がアンドル エ ロワール県に開校されたことを契機に、兵庫県とアンドル エ ロワール県との間に友好交流が始まり、1999年4月ジャン・ドラノー・アンドル エ ロワール県議会議長が兵庫を訪問し、2006年5月には井戸敏三兵庫県知事が同県を訪れるなど首長同士の相互訪問も行われた。

この間、学校の所在地のサンシール市地域住民の協力のもと、学園在校生は長期にわたるホームステイでの貴重な体験の機会を与えられた。学園在校生は、フランスでの家庭生活体験を通じて、フランス文化やフランス語についての理解を深めることができた。また、生徒の和太鼓グループはサンシール市の公式行事に参加するなど地域にも溶け込み、地域への愛着を育んでいった。一方、学園在校生を受け入れたサンシール市民においても、日本文化・日本語への関心が高まり、これらへの理解が深められた。遺憾ながら諸般の事情により2013年3月にトゥレーヌ甲南学園は閉校したが、学園生徒が地域に溶け込み、地域住民との交流によって醸成された市民の日本への愛着は、友好交流の輪へと大きく膨れ上がり、当校閉校と同時に、サンシール・シュール・ロワール日仏友好協会が設立された。

こうしたなか、安福幸雄神戸日仏協会会長は、2015年10月、日本の伝統工芸作家とともにサンシール市を訪れ、同日仏友好協会の協力のもと、日本の伝統工芸を紹介する展示会を開催し、好評を博した。

その機会に、安福会長と保井田サンシール日仏協友協会会長は、2015年10月12日、両協会の交流の可能性に関する協議を行い、「両日仏協会は、両協会会員の相互交流やホームステイ事業の支援、文化活動への協力など具体的・詳細な検討を行っていく」ことを確認し、覚書を締結した。

爾来、両協会は建設的・具体的な協議を重ね、神戸日仏協会とサンシール・シュール・ロワール日仏友好協会は、草の根レベルの友好交流を将来的により発展させるため、下記のとおり合意し、協定書に署名する。

記

1 会員の相互交流の促進及び支援

両協会は、会員が語学研修や文化探訪・観光等で訪問する場合、ホームステイはじめ、会員の活動が円滑に進められるよう便宜を図る。

2 文化交流の促進及び支援

両協会は、相互の文化に関する理解を深めるため、工芸作家等の芸術・文化分野の交流を促進し、その活動が円滑に進められるよう支援する。

3 その他

今後両協会にとって必要且つ有意義な事業を行うこととし、実施にあつたては双方協議の上、決定するものものとする。

2016年10月6日、サンシール・シュール・ロワールにて

署名

一般社団法人 神戸日仏協会

会長 安福 幸雄

サンシール・シュール・ロワール仏日友好協会

会長 保井 円

安福幸雄

保井円

立会人

兵庫県副知事

金澤和夫

アンドル・エ・ロワール県議会副議長

ファブリス・ボワガール

金澤和夫

FBH

神戸市長

久元喜造

サンシール・シュール・ロワール市長

フィリップ・ブリアン

久元喜造

Philippe Brian



Convention de coopération pour la promotion des échanges entre la Société franco-japonaise de Kobé et l'Association Amitié Saint-Cyr Japon

En 1991, L'Institution Konan Gakuen a ouvert à Saint-Cyr-sur-Loire en Indre-et-Loire « le Lycée-collège Konan de Touraine », qui a été chaleureusement accueilli par la région. (Ultérieurement l'établissement a modifié sa dénomination pour devenir « France Konan Gakuen Touraine ».)

Après 22 années d'existence jusqu'en février 2013, l'établissement a compté 637 élèves lauréats.

A l'occasion de l'ouverture de cette école, les Départements d'Indre et Loire et de Hyogo ont entamé des relations d'échanges. En avril 1999, M. Jean DELANEAU, Président du Conseil Général de l'époque s'est rendu au Département de Hyogo. En mai 2006, M. Toshizo IDO, Gouverneur de Hyogo, est venu en Touraine, au conseil Général, scellant ainsi l'amitié des deux départements.

Durant ces années, avec le concours des habitants de Saint-Cyr-sur-Loire, les élèves ont eu la chance de bénéficier une expérience précieuse, celle de l'hébergement en famille. Grâce au séjour en famille, les élèves ont pu connaître au mieux la culture et la langue française. Les élèves japonais, surtout par les concerts de tambour japonais, participaient aux manifestations culturelles organisées par la Ville de Saint-Cyr-sur-Loire. L'intégration de nos élèves a été bénéfique non seulement pour eux mais aussi pour les Saint-Cyriens. La présence du lycée Konan a suscité chez les habitants de Saint-Cyr-sur-Loire un intérêt croissant pour la culture et la langue japonaise, et facilité la compréhension mutuelle.

Malheureusement pour diverses raisons, le lycée Konan a fermé ses portes en mars 2013. Les liens d'amitié créés à Saint-Cyr-sur-Loire et l'envie des Saint-Cyriens de garder des contacts avec le Japon ont fait naître, lors de la fermeture du Lycée Konan, une association « Amitié Saint-Cyr Japon », afin de développer des échanges franco-japonais.

Dans ces circonstances, en octobre 2015, M. Yukio YASUFUKU, Président de la Société franco-japonaise de Kobé, a organisé à Saint-Cyr-sur-Loire une exposition avec trois artisans d'art japonais en bonne collaboration avec l'Association Amitié Saint-Cyr Japon. Cette exposition, en présentant aux Tourangeaux l'art et la tradition japonaise, a été un succès dans le cadre des échanges culturels.

A cette occasion, M. Yukio YASUFUKU et M. Madoka YASUI, Président de l'Association Amitié Saint-Cyr Japon ont confirmé leur volonté de promouvoir des échanges entre nos deux associations franco-japonaises. Afin de mettre en place divers programmes concrets pour nos adhérents, tels que « des échanges entre les membres, des soutiens pour des séjours en famille, la collaboration pour des activités culturelles », nous avons conclu en octobre 2015 la signature du protocole d'accord de coopération.

Pour cet objectif, les Présidents des deux associations, se sont mis d'accord pour signer cette présente convention de coopération, en vue de développer les échanges concrets cités ci-après.

1. Promouvoir et faciliter les échanges amicaux entre les adhérents.

Les deux associations apporteront leur aide et soutien à nos adhérents qui souhaitent faire un séjour linguistique en famille ou une visite touristique dans la région.

2. Promouvoir et aider les échanges culturels.

Pour une meilleure compréhension de nos deux cultures, les deux associations soutiennent, facilitent et organisent des échanges culturels et artistiques tel que des expositions d'artisans d'art.

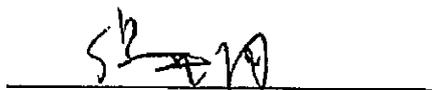
3. Autres : les deux associations, après un processus de concertation, mettront en œuvre des actions d'utilité publique.

Fait à Saint-Cyr-sur-Loire, le 6 octobre 2016

Signataires :

M. Yukio YASUFUKU,
Président de la Société franco-japonaise de Kobé

M. Madoka YASUI,
Président de l'Association Amitié Saint-Cyr Japon



Assistés des témoins

M. Kazuo KANAZAWA
Vice-gouverneur du Département de Hyogo

M. Fabrice BOIGARD
Vice-président du Conseil Départemental
d'Indre et Loire



M. Kizo HISAMOTO
Maire de la Ville de Kobé

M. Philippe BRIAND
Député-maire de la Ville de
Saint-Cyr-sur-Loire



別添資料4

Japan. Endless Discovery.



Echanges internationaux entre le département de Hyôgo et la France et stratégies industrielles tournées vers l'avenir

5 octobre 2016

Kazuo KANAZAWA

Sous-préfet du département de Hyôgo



Welcome Hyogo



Sommaire

1. Présentation du Hyôgo
2. Relations avec nos 4 départements français
3. Stratégies industrielles d'avenir dans le département de Hyôgo

1. Présentation du Hyôgo



Welcome Hyogo 3

(1) Présentation du Hyôgo

- Superficie : 8400 km² (12^{ème} rang des 47 départements du Japon)
- Population : 5.5 millions d'habitants (7^{ème} rang des 47 départements du Japon)
(Ville de Kôbe 1 million 540 000 habitants)
- PIB réel : 27900 milliards 600 millions de yens (8^{ème} rang des 47 départements du Japon)
(174 milliards d'euros)

< Région du Kansai >

Mer du Japon

Océan Pacifique

Mer intérieure de Seto

Tôkyô

Hyôgo

(Kôbe)

Osaka

Nara

Wakayama

Kyôto

Shiga



(2) Histoire des relations entre le département de Hyôgo et la France

1. Jean-François Coignet et la mine d'argent d'Ikuno Ginzan

Diplômé de l'Ecole des mines, il est venu au Japon sur l'invitation du gouvernement Meiji et a déployé tous ses efforts pour moderniser les mines d'argent d'Ikuno Ginzan (1868-1877)



Buste de Coignet à l'entrée de la mine d'argent d'Ikuno Ginzan

2. Pierre de Lucy-Fossarieu et Kôbe

- Vice-consul de France à Kobe et Osaka (1889-1904)
- Il a contribué à mettre en place l'Association franco-japonaise de Kobe (1899)



Pierre de Lucy de Fossarieu

2. Relations avec nos 4 départements français



Welcome Hyogo 6

(1) Relations avec nos 4 départements français

Département du Nord

Inspection du Centre de recherche européen sur le textile
(A Lille le 16 juillet 2015)

Département de Seine-et-Marne

Séminaire Hyogo
(A la préfecture de Seine et Marne le 30 août 2012)

Département d'Indre-et-Loire

Promotion du saké
(mai 2007 à Tours)

Département de l'Aveyron

Echanges culinaires
(26/28 mai 2011 à Conques)

Welcome Hyogo 7

(2) Seine-et-Marne

Début des échanges

En 1989	le Président du CG de Seine-et-Marne de l'époque a proposé un jumelage avec le Hyogo (par l'intermédiaire du Président de la <i>University of Marketing and Distribution Sciences</i> , M.KATAOKA)
En 1991	un mémorandum pour les échanges entre personnes était signé

- Art**
 - Exposition d'artistes du Hyogo au Musée Rousseau
- Économie**
 - Organisation d'un séminaire économique
 - Mission économique dans le Hyogo
- Éducation**
 - Aide à la mise en place d'échanges avec le lycée départemental d'Ikuno
 - Echanges entre les personnes

Cérémonie de signature de la déclaration commune entre le président Barbeau et le préfet Ido
(Au Conseil départemental de Seine et Marne le 15 juillet 2015)



(3) Indre-et-Loire

Début des échanges

En avril 1991 Echanges centrés sur l'éducation et qui ont débuté avec l'ouverture du Collège Lycée Konan de Touraine, école française de Kônan Gakuen.

Économie

- Promotion du saké à Tours

Éducation

- Accueil dans le Hyôgo d'une mission économique de l'Indre-et-Loire

Culture

- Echanges sur l'éducation et la culture au lycée Kônan en Touraine



La visite en France aura permis de nouer des relations d'amitié entre l'Association franco-japonaise de Kôbe et l'Association amicale franco-japonaise de Saint-Cyr



(4) Aveyron

Début des échanges

1998 « Premier conseil départemental franco-japonais » Visite du président Buech après la conférence

Novembre 2000 Signature du protocole « Efforts communs pour l'économie, l'environnement, l'éducation et la culture »

Culture

- Echanges culinaires
- Recueil de messages en provenance du pays natal de Jean-Henri Fabre

Art

- Représentation d'une chorale du Hyôgo à Conques
- Démonstration d'un forgeron du Hyôgo au festival « Fers et Lames »
- Préparatifs en vue d'établir des échanges d'oeuvres d'art avec le musée Soulages

Sport

- Tournoi de judo
- Env oi de professeurs de judo





(5) Département du Nord

Début des échanges

En 2004 une représentation de théâtre de marionnettes jōruri organisée pour le 10ème anniversaire du bureau du Hyōgo à Paris

Société

• Participation du Hyōgo à un symposium sur le vieillissement de la population organisé par le département du Nord

Économie

• Accueil dans le Hyōgo d'une délégation du Nord venue observer les mesures contre le vieillissement de la population

Culture

• Délégation du Nord dans le Hyōgo

• Conférence sur les échanges culturels et les échanges entre musées lors de la visite du préfet au département du Nord



Mots de courtoisie du vice-président et de ses collaborateurs au préfet Ido

A la préfecture de Hyōgo le 31 octobre 2014

Avant la première visite en France (septembre 2016)

Succès du « Forum économique France (département du nord) – Hyōgo (Kansai) »



(6) Echanges avec la France dans toutes les villes du département



Kōbe – Marseille (juillet 1961)
* villes jumelées



Château de Himeji (ville de Himeji) –
Château de Chantilly (mai 1989)
* châteaux jumelés



Nishinomiya – département de Lot et Garonne, Agen (avril 1992)
* villes jumelées



Asago – Barbizon (juin 2008)
* villes jumelées



Toyōka- Actrice Hélène Jacob
* Echanges artistiques



Station thermale de Kinosaki

3. Stratégies industrielles tournées vers l'avenir dans le département de Hyôgo



Welcome Hyogo

13

(1) Atouts du département de Hyôgo – Richesse de l'industrie artisanale

*Montant des expéditions de produits finis: environ 129 milliards d'euros, 4.9% du marché national (5^{ème} rang des 47 départements du Japon)



(2) Efforts pour l'industrie d'avenir du département de Hyôgo
 « Projet de création d'emploi dans les industries d'avenir »



Aide et assistance

Technologies de pointe

- Aide et participation dans le secteur aéronautique des petites et moyennes entreprises
- Aide à l'utilisation et à la vulgarisation des robots dans le domaine des soins et des traitements médicaux, etc.

Environnement-Energies d'avenir

- Aide à l'implantation à l'étranger des petites et moyennes entreprises dans le secteur du traitement de l'eau
- Secteurs de l'environnement et des énergies nouvelles (piles à hydrogène), aide à la formation des ressources humaines, etc.

Traitements médicaux de pointe

- Aide au développement des médicaments et à la médecine régénérative
- Aide pour les appareils médicaux et équipements de soins

Structures de soutien aux industries de l'avenir

- Aide au développement des techniques artisanales
- Aide pour promouvoir l'utilisation du rayonnement solaire avec l'informatique

(3) Montant de la production des entreprises du département intéressées aux industries d'avenir



	<u>année 2015</u>	<u>objectifs année 2019</u>
Aéronautique- recherche spatiale	1 milliard 200 millions d'euros	→ 1 milliard 900 millions d'euros
Robotique	360 millions d'euros	→ 490 millions d'euros
Energies nouvelles	1 milliard 100 millions d'euros	→ 2 milliards 400 millions d'euros
Equipements médicaux	470 millions d'euros	→ 710 millions d'euros

Robots pour usage généralisé



Usine de liquéfaction de l'hydrogène



Equipements médicaux





(4) Infrastructures R&D de haut niveau

A) Installation géante de rayonnement synchrotron SPring-8 (utilisation collective opérationnelle depuis octobre 1997)

- Située à la Harima Science Garden City cette installation peut produire le rayonnement synchrotron le plus puissant au monde (1,000,000,000 de fois plus brillant que les rayons X).

B) Laser à électrons libres SACLA (utilisation collective opérationnelle depuis mars 2012)

Phénomène biologique et réaction en présence d'un catalyseur;
observation du déplacement rapide des atomes et molécules



C) Superordinateur nouvelle génération « K » (utilisation collective prévue pour septembre 2012)

- L'Institut de recherche scientifique à Kôbe au service des technologies clé de l'Etat



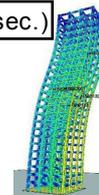
Nombreux domaines d'applications :

1. Fabrication
2. Nanotechnologie
3. Prévention des risques
4. Aéronautique/espace
5. Sciences de la vie
6. Environnement

Capacité de calcul : 10 pétaflops/ seconde (10^{16} opérations/sec.)

10,000,000,000,000,000 opérations par seconde

Département d'étude des simulations ouvert en avril 2011 à l'Université départementale du Hyôgo.



Simulation de séisme

D) Kobe Medical Industry Development Project

• 13 Clusters où se concentrent des entreprises des sciences de la vie avec une collaboration entre le monde industriel, académique et gouvernemental du Kansai (Kyôto, Ôsaka, Kôbe) :

- ◆ Centre de soins médicaux avancés
- ◆ Institut RIKEN
- ◆ Centre d'informations sur les études cliniques, etc.



Instituts de recherches privés

- Boehringer-Ingelheim Japan (Allemagne)
(R&D médicaments)
- Johnson and Johnson (US)
(Evaluation et amélioration d'appareils de soins et d'opérations)
- Estée Lauder (US)
(R&D soins de la peau)
- Olympus (Japon) (Appareils médicaux et médecine régénérative), etc.

• 316 implantations d'instituts de recherches de haut niveau et d'entreprises médicales (parmi elles 24 entreprises étrangères) *Données pour mars 2016

E) De nombreuses universités mettent à profit les particularités régionales

- A commencer par l'Université de Kôbe et l'Université départementale de Hyôgo, on compte 41 universités au sein du département (4^{ème} rang des 47 départements du Japon)
- Les étudiants étrangers inscrits dans les universités, les instituts, les universités à 2 ans et les lycées techniques professionnels sont au nombre de 5 100 (8^{ème} rang des 47 départements du Japon)

Nombre d'étudiants étrangers dans les universités du département pouvant accueillir plus de 100 étudiants étrangers

Nom de l'université	Nombre d'étudiants dans les facultés	Nombre d'étudiants dans les instituts	Nombre d'étudiants chercheurs	Nombre d'étudiants étrangers
Université de Kôbe	107	720	328	1 155
Université Kansai Gakuin	462	124	117	703
Université Ryûtsû Kagaku (University of Marketing and Distribution Sciences)	367	41	50	458
Université Kôbe Kokusai	282		79	361
Université départementale de Hyôgo	59	97	20	176
Université Himeji Dokkyô	152	12	10	174
Université d'Ashiya	100	1	2	103



Université de Kôbe



Université départementale de Hyôgo



Université Kansai Gakuin



Université Kôbe Kokusai



Université Ryûtsû Kagaku

(5) Attraction et implantations d'entreprises françaises

■ 4 entreprises françaises ont leur siège dans le Hyôgo
(17 autres y ont des bureaux)



■ 8 entreprises du Hyôgo implantées en France



* Espace économique international

Environ 395 sociétés se sont implantées dans le Hyôgo depuis 1998

Aide à l'implantation des entreprises étrangères et à capital étranger grâce à des mesures de faveur

Mesures de faveur pour 90 sociétés depuis 2002

(6) Un cadre de vie favorable aux étrangers

Le Hyôgo compte 100 000 étrangers de 150 pays différents.

Education : 12 écoles étrangères
(Canadian Academy, Kobe Chinese School, Deutsche Schule Kobe...)

Santé : 4000 établissements de santé multilingues

Etablissements religieux : de nombreux établissements religieux dans un rayon de 5km autour du centre de Kôbe

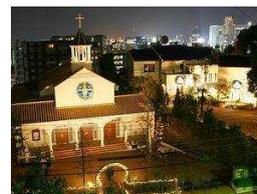
Communautés : de nombreuses communautés avec le Club des Etrangers de Kôbe, le Kobe Regatta & Athletic Club, CHIC, la Société Franco-Japonaise de Kôbe, etc.



Etablissements de santé multilingues



Ecoles étrangères



Eglises de Kitano

(7) Service Département de Hyôgo en France: Bureau de représentation à Paris

Date de création : octobre 1993

Zone d'activité : Europe

Activités principales

1. Promotion des échanges économiques, culturels et académiques entre le Hyôgo et les collectivités européennes.
2. Soutien aux échanges amicaux du Hyôgo, de ses collectivités et groupes.
3. Promotion du Hyôgo et de la culture japonaise.

Renseignements

Bureau de représentation à Paris: Directeur M. Yokokawa

Adresse: 10, rue de Louvois, 75002 Paris

Tel : +33(0)1 42 97 42 82

URL : <http://assoc.wanadoo.fr/hyogo/>



Mascotte du département de Hyôgo « Habatan »

Venez nous voir dans le Hyôgo !



Préfet de Hyôgo M. Toshizo Ido

Merci pour votre attention.